

【収入保険】私の選択・加入者の声



「補てん割合の選択幅に魅力」

【大分県豊後大野市
(有)旭 代表取締役 田中 拓次さん(41)】

経営規模＝茶6.2ヘクタール、サツマイモ80アール

茶にとって一番のリスクは、売り上げの6～7割を占める一番茶への霜害です。よく、「八十八夜の別れ霜」といいますが、近年は温暖化の影響からか晩霜害がひどく、さらに遅れて発生するようになりました。

2004年の新植当初から霜害を経験し、痛い思いをしたので保険の必要性を感じていましたし、**補てんの割合を選べる選択肢の幅があるのがいい**ですね。

現在、茶は年間約13トン生産し、一番茶の半分と二番茶はペットボトル飲料水の原料として契約出荷しています。契約栽培では、良い物を作ればそれなりの単価ですぐ現金化できるメリットもありますが、**全国の平均市場単価の低迷が続いているので、契約単価も今後下げられるリスクがあります。価格低下による収入減少もカバーしてもらえないのはありがたい**です。

(農業共済新聞 [九州北部版] 2019年8月4週号より抜すい)